

日本情報科教育学会第7回全国大会を振り返って

第7回大会実行委員長
千歳科学技術大学教授 小松川 浩

1. はじめに

日本情報科教育学会（JAEIS）第7回全国大会は、千歳科学技術大学（北海道千歳市）にて7月19日（土）・20日（日）の両日開催されました。第6回大会に引き続き、高等学校での新学習指導要領の実施にあわせて、情報科教育に携わる多くの教育研究者、教育実践者の参加・発表を募り、情報共有の場を形成することを目的としました。さらに、社会につながる情報科教育の役割について広く情報交換を図るために、海外との連携に関する事例を集め、会員間及び連携可能な様々なステークホルダーとの意見交換を図れる大会運営を行うこととしました。

2. 大会の概要

大会では、学会・行政・海外研究者らの招待講演やパネルディスカッション、一般研究発表やポスター・デモセッションを開催しました。また大会2日目には、教育システム情報学会の研究会を併設で実施し、相互の交流を図る試みを行いました。開催時期に北海道の高校の幾つかの行事と重なってしまったため、地元の参加が減り、最終的

には200名弱の参加となりました。発表等の件数は下記のとおり例年通りとなりました。

基調講演：1件、招待講演：3件、
研究発表：56件、ポスター発表：10件、
デモンストレーション：5件

千歳科学技術大学と共催して、会場までのシャトルバスと本部棟の貸し切りの措置を取りました。また、文部科学省、経済産業省、総務省、北海道教育委員会、千歳市教育委員会、北海道高等学校教育研究会情報部会、NPO法人 ホトニクスワールドコンソーシアム（PWC）に後援をお願いし、情報処理学会・初等中等教育委員会、情報処理学会・コンピュータと教育研究会、日本教育工学会、教育システム情報学会、電子情報通信学会・教育工学研究会、情報コミュニケーション学会に協賛をお願いしました。

企業展示は7件、企業広告は6件となりました。展示は、受付前のオープンスペースに展開をすることができ、参加企業からは、多くの参加者にブース訪問を頂いたと好評でした。



写真1 千歳科学技術大学（キャンパス）

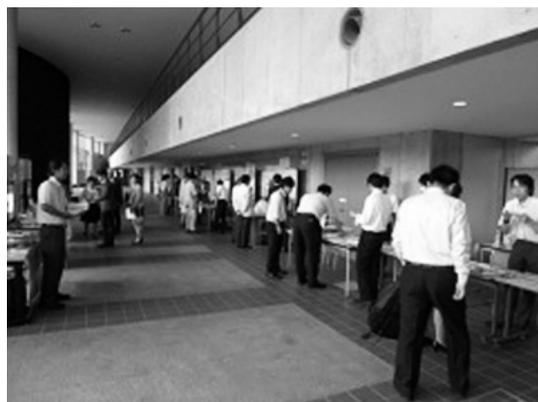


写真2 受付と企業展示



写真3 基調講演の様子



写真5 パネルディスカッションの様子



写真4 招待講演の様子

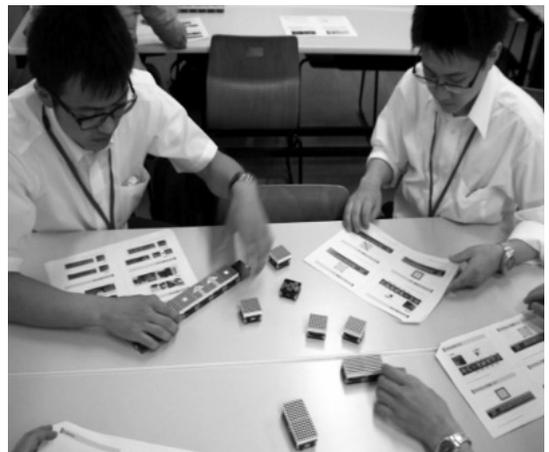


写真6 ワークショップ（タンジブルブロック）

3. 基調講演・招待講演・パネルディスカッション

岡本敏雄会長（京都情報大学院大学）に、普通教科情報の中でどのような力を育成させるべきかについて基調講演を頂きました。情報科で修得させるべき能力として、スキル・概念形成、論理的思考力・モデリング力、微視的・巨視的ものの方と問題解決力、モラル・人間と社会、職業観など様々な要素があります。本講演では、これらを踏まえた上で、学力問題やグローバル社会での人材育成の観点も考慮し、インターネットを中心とした社会的コンピューティングの観点でとらえ直し、新しい情報科教育学に向けてのe-Pedagogyを構築していく必要があると、改めての問題提起

を頂きました。

また招待講演1として、文部科学省 情報教育課長 豊島基暢様から、教育の情報化に関する施策についてご紹介を頂きました。特に、少子化が進む中で、教育の質をどのように確保していくかという観点でお話を頂きました。引き続いての招待講演2では、高麗大学の金顯哲先生より、韓国の情報教育の現状と展望についてご講演を頂きました。国際比較の中での、韓国の情報教育の優れた点と同時に日本の課題についても理解を深めることができました。あわせて招待講演3では、東北師範大学の董玉琦先生より、中国での情報教育の状況についてご紹介がありました。その後、岡本会長を交えて、パネルディスカッションの形



写真7 一般研究発表



写真8 デモセッション

で、日本・中国・韓国の情報教育の国際比較について意見交換を行いました。特に、ICTを活用するという視点と、情報に関する正しい知識と技能を身につけさせるという視点を明確に分けて議論できているかについて、各国のスタンスについて意見交換を行いました。

また大会では、ワークショップも開催して、高麗大学の権大容先生と沈載權先生にお願いをして、タンジブルブロックを用いたプログラミングについて体験をしました。参加者は、グループワークを通じて、体を動かしながら、プログラミングのイメージをつかむ体験を行え、大変盛況なイベントとなりました。

4. 研究発表

研究発表は、1日目に1スロット（4パラセッション：ロボット・フィジカルコンピューティング、教員養成・人材育成、教材開発と実践、情報モラル教育）で実施しました。また、2日目には2スロット（8パラセッション：アルゴリズム、情報の科学、カリキュラム評価、教員養成・著作権教育、プログラミング教育、大学連携、次期の情報科教育、教材開発と授業支援）を実施しました。各セッションで、大変活発な意見交換を行って頂きました。あわせて、2日目午後には、ポスターセッションとデモセッションが開催され、実際に開発した教材に関する具体的なイメージを持って意見交換を行って頂きました。

5. おわりに

今回の大会を通じて、情報教育の海外動向を理解することで、今後の日本の情報教育のあり方を再検討する機会となって頂ければ幸いです。来年の全国大会は、九州・中国・四国支部の担当で開催される予定です。来年の大会でも、会員各位がお互いに積極的に情報共有を図って頂くことで、日本の情報教育の活性化に繋がって頂くように願っております。